

農  
学部

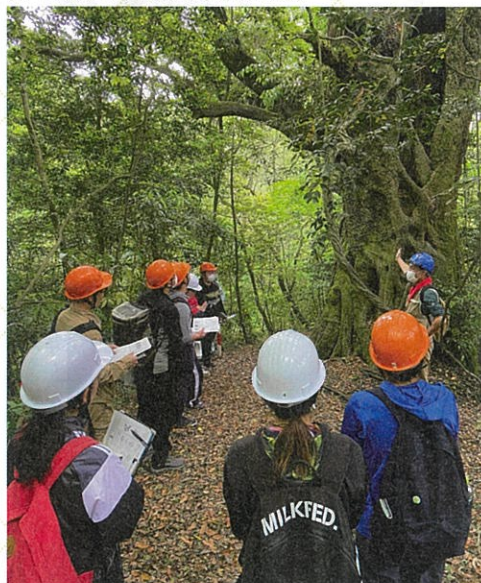
土や水からバイオ、  
流通まで人間に欠かせ  
ない食のすべてを担う



鹿児島大学  
農学部長  
橋本 文雄 先生

薬学博士。大学院時代からお茶の研究に取り組み数々の機能性物質を発見。その研究を続けつつ現在は花の色の発色機構の解明や花色の育種などの研究も行っている。園芸学会 園芸学会賞年間優秀論文賞受賞。

鹿児島大学農学部の3000ha以上に及ぶ広大な演習林で、自然林を観察。1年次から演習林での実習も体験できる



田植え機や手作業での稲の田植えなどの農業実習もある。鹿児島大学農学部の附属農場では、花や米、柑橘類、野菜などを栽培している



バイオや遺伝子を扱う食料生命科学科のDNAの抽出実験。橋本先生によると、この学科は、外にいるより研究室での実験が大好きという学生が多いそう

農学部といえば農業などの第一次産業のイメージが強いが、繁殖学や食の安全も含め、「食」にかかわる幅広い分野を網羅する学問だ。鹿児島大学 農学部長の話をもとに、その魅力を紹介しよう。

Q 農学とは  
どんな学問ですか？

A ひと言で言うなら、人間が生活するために利用している生命活動のすべてを対象とする学問です。一般的にイメージされるような農作物の栽培や畜産はもちろん、農作物を育む水資源や微生物などの土壌の分析なども含まれます。また、食品の機能性を研究したり、食の安全性を高めるために食品工場を審査したり、間伐材の活用や地すべり災害防止のための調査といった林業の分野や、食に関する流通なども農学の領域です。さらに、ある食品をもっと売るための市場調査を行ったり、鹿児島大学に焼酎発酵・微生物科学コースを設置しているように、他にも、各地の食文化に根ざした研究を行っているところもあるかもしれません。

これからの農学には、SDGs (Sustainable Development Goals・持続可能な開発目標) に代表される環境への配慮や、就労者数の激減と高齢化といった課題を抜きには語れません。本学では環境問題に早くから取り組み、今後は

牛のハンドリング(扱い)に慣れる訓練。鹿児島大学には附属の牧場もあり、約200頭の黒毛和種を飼育。繁殖から肥育まで全育成段階の研究を行っている



新規就労者への農業支援も視野に入れています。農学部に近いイメージの他学部としては理学部がありますが、理学部は自然界の法則や仕組みを論理的に解明する学問で、食に関連する分野は扱いません。対して農学では食に関する仕組みや法則を利用して、最終的に食の生産というアウトプットに結びつけることが重視される学問です。

Q 農学の魅力や楽しさ、  
難しさは？

A 何気なく食べていた食材を自分で栽培、収穫すると、「こんなにおいしかったのか」と驚くはず。植物や動物の命をいただくとはどういうことか、「いただきます」という言葉の意味を深く理解できるのが魅力です。

もちろん植物も動物も、育てるのは大変。環境や気候を考慮するのももちろん、排泄物の処理もしなくてはなりません。私は花の育種(品種改良)に取り組んでいますが、1日10時間、ハウスで実験を行うこともあります。

Q 農学部では  
どんなことを学びますか？

A 本学では、農業生産から流通までを一貫して学ぶ農業生産科学科、食品の安全性や機能性、バイオや遺伝子に関して扱う食料生



橋本先生の研究室が行っているトルコキキョウの交配実験。「きちんと育てるとハウスに入った瞬間、花々がこちらを向いて『ありがとう』と語りかけてくれるような気がします」と橋本先生

先輩から  
ひと言



持続可能な  
生産体系での  
新しい農業を目指して

鹿児島大学  
農林水産学研究所1年  
山内 瑠子 さん

食 科を生産する技術を学術的に学ぶことから、農学部を志望。大学入学後、農学には幅広い学問領域において、専門性の高い知識が必要とされることを痛感しました。現在は、成長を促進する細菌を用いた、熱帯産ヤマノイモ(日本ではとろろ、熱帯では主食)の新しい栽培技術の実証に向けて研究しています。将来は、こうした新しい農業の形を、生産現場にスムーズに導入できる助けになりたいと考えています。

命科学科、森林資源の利活用や防災にかかわる技術、水資源、バイオマス資源など、地球環境の保全に貢献する人材を育成する農林環境科学科があります。どの学科でも、1年次に、先に紹介した農学の幅広さや鹿児島の地域性などを学び、農業実習もあります。

Q 受験生にメッセージを  
お願いします

A 最近、若い人に人気の脱出・謎解きゲーム。高校での学びは答えのある問題を解くためのものですが、まだ解明されていない謎に挑む大学での学びは、これに近いように思うのです。謎が解けて、科学の“迷路”から脱出できた時は、震えが止まらないほどの喜びが。農学研究の謎と一緒に挑んでみませんか！